

京都第二外環状道路における高架下利用の取り組み(ワークショップ)について

長岡京市 市街地整備推進室 室長補佐 藤井 義之

1 はじめに

京都第二外環状道路(にそと)は、一般国道 478 号京都縦貫自動車道路(高規格幹線道路)の一部を構成し、大枝 IC(仮称)～久御山 IC をつなぐ総延長 15.7km の上下4車線の自動車専用道路である。

長岡京市では、市域の区間(4.7 km)について、高架下空間や環境施設帯など、地域住民が利用可能な空間の活用・管理の在り方を考える場として「にそと 人と自然のふれあい空間検討ワークショップ」(主催:長岡京市)を組織し、地域が一体となって検討を進めている。



図-1 「にそと」概要図

本稿は、当ワークショップ(以下、WSとする)を通じて進められている、事業計画への住民等の参画、行政と住民の協働体制の確立について、平成18年度の取組内容を報告するものである。

2 にそとワークショップの概要

2.1 目的と目標

○ 目的

- ◆ 「にそと」の活用空間について、市民と関係機関が一体となって検討すること。
- ◆ 利用者である長岡京市民の幅広い層から意見を取り込めるよう直接参加型で計画すること。
- ◆ このWSにより、京都第二外環状道路並びにまちづくりへの理解を深めること。

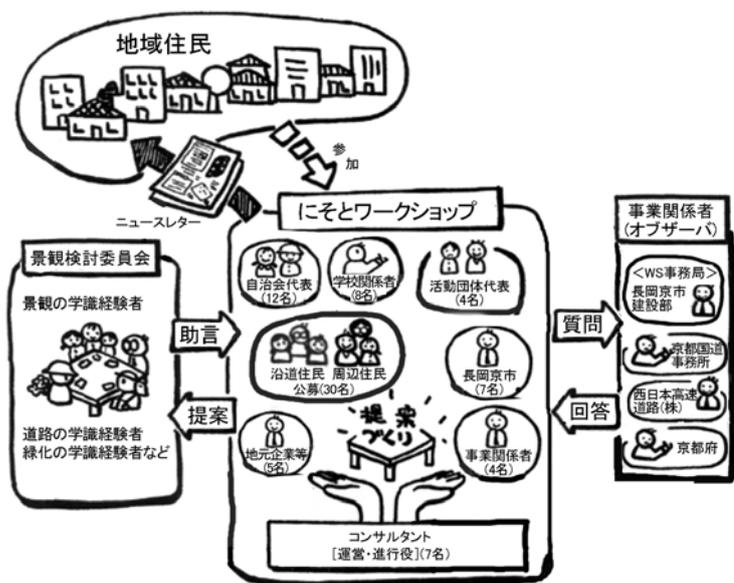


図-2 にそとワークショップ組織図

○ 目標

◆ 活用空間の整備メニュー、イメージをまとめる。 (平成18年度 計6回:報告事例)

❖ 整備イメージに基づいた活用・管理に関する検討。

❖ 高架下空間等の有効活用と管理等における協働の土台作り。

(平成19年度 計6回:今年度開催)

2.2 成果の位置付け

WS成果を基に、長岡京市としての高架下利用計画を作成し、事業者へ要望を行う。

2.3 実施方式

参加者)・一般公募として広く市民の各層から参加を募ったほか、沿線の自治会、小中学校、各種団体(NPO 等)、企業、行政(国交省・ネクスコ・京都府・長岡京市)にも参加を依頼し、総勢77名を募った。(一般公募 30 名、その他 47 名)

・一般公募のメンバー選考に当たっては、長岡京市域に在住の方を優先し、参加動機の内容からWSの目的に適する応募者を選考した。

公開性)・開催予定、結果については、市広報誌と共に市全戸(約 32,000 戸)にニュースレターを配布し、速報版に関してはホームページで公開することで、WS の透明性や情報の周知に努めた。基本的には、メンバー以外の飛び入りは傍聴とした。

2.4 実施日・テーマ

開催にあたり、本当に活用される空間、長岡京市に適した空間を参加者自ら作り、育てていくことを目指したプログラムとなるよう、各回のテーマを設定している。

表-1 開催状況と各回の目標

開催日	テーマと内容	目標
平成18年度	■ 第1回 平成18年5月 <にそと計画について知ろう> ・道路計画の概要説明、現地視察	・前提条件の認識 ・参加者同士の顔合わせ
	■ 第2回 平成18年7月 <現況を再確認し、活用の方向性を考えよう> ・にそと周辺の現況を整理、整備方針の検討	・地域特性の把握 ⇒長岡京にあった空間づくり
	■ 第3回 平成18年9月 <事例を見て活かせることや課題を確認しよう> ・事例見学(神戸、大阪、久御山)	・課題を事例から学ぶ ⇒活用される空間づくり
	■ 第4回 平成18年11月 <望まれる道路空間の方針を考えよう> ・整備方針のとりまとめ	・事務局ではなく参加者が整備イメージをつくりあげる ⇒自らの手で作り、育てていく空間としての認識
	■ 第5回 平成19年1月 <方針を踏まえ、具体的な整備メニューを考えよう> ・ゾーニングや具体的な整備メニューの検討(模型を作成)	・完成後のイメージの共有 ←VRの活用(事業者から提供)
	■ 第6回 平成19年2月 <全体を考えながら、整備イメージをまとめよう> ・事務局でまとめた整備イメージについて意見交換	・安全、活用、管理面の課題把握 ⇒利用者の協力の必要性を認識
平成19年度	■ 第7回 平成19年5月 <安全や活用・管理面を考え、計画をおさらいしよう> ・活用イメージの再確認と管理等における課題の抽出	・他地域での取組等から学ぶ ⇒協働への機運を高める
	■ 第8回 平成19年7月 <行政と市民の協働ってなに?> ・行政と市民の協働による運営管理についての講演	・具体的な管理の在り方についての検討 ⇒各自がやるべきことを認識
	■ 第9回 平成19年9月 <いつ、だれが、何をどのようにしていくか I > ・市民、行政の役割分担内容の把握、検討	・完成までにすべきことの整理 ⇒完成までの活動の継続
	■ 第10回 平成19年11月 <いつ、だれが、何をどのようにしていくか II > ・管理運営の方法や組織づくりの検討	・総まとめ、参加者以外への広報 ⇒今後の活動へ
	■ 第11回 平成20年1月 <仲間をつくろう! 完成までの行動計画> ・活動の年次計画	
	■ 第12回 平成20年2月 <これまで話し合った内容を提言としてまとめよう> ・2年間の検討結果を提言としてまとめる	

3. 実施内容

3.1 参加者全員の意見を引き出す

WSにおいては、公募のほか、自治会や各団体の代表として参加するメンバー全員が、意見を出し合えるよう、6班(3拠点×2班)に分かれてグループワークを行い、その後、全体ワークで各グループが発表、意見交換を行う流れとしている。

進行役となるファシリテーターは、第三者であるコンサルタントに依頼し、行政主導ではなく参加者がより自由に意見交換し、積極的に発言ができるよう配慮した。また、事業者はオブザーバーとして、必要に応じて質問等に対応することにより、住民と対立するような構図は最小限となり、前向きな意見が活発に寄せられる結果につながった。



＜グループワーク＞
進行は各テーブルファシリテーターが行う



＜全体ワーク＞
各グループが発表し、意見交換を行う

図-3 検討の流れ

3.2 事例から学ぶ

実際の高架下等の空間イメージをつかみ、様々な課題を把握するため、京阪神地区の事例見学を行った。現地での管理者へのヒアリングでは、完成後の管理の在り方が非常に重要であることが、参加者全員の共通の認識となった。この時の感想として、『行政に頼るだけでなく、自らが出来る範囲で管理する大切さに気づいた』と言う意見が多く寄せられた。



図-4 事例見学のようす

3.3 参加者自らがつくりあげる

自分たちがつくり、育てていく空間であるという認識を高めるため、整備イメージの作成作業においても、事務局ではなく、参加者自らが手を動かして、「ゾーニング図」や「模型」作り上げていくプログラムとした。また、完成後のイメージを共有するため、VR(バーチャルリアリティ)を活用し、パソコン画面上で、任意の視点からの眺めを確認しながら検討できるようにした。なお、データは事業者(国)から借用した。



図-5 各班で作成した模型



図-6 整備イメージ(VR 画像)

3. 4 運営について(フォローアップ)

参加者の中には、「にそと」事業に反対する立場の方もいたことから、WSの趣旨からはずれ
る意見も見受けられた。しかし、回を重ねるに従い、自分たちの手で「にそとWS」を作り上げ
ていこうという認識が会場全体に広がり、次第に建設的な意見に変わった。この間事務局は、
事前配布物、当日の資料等で、WSの目標を繰り返し説明すると共に、各WSの冒頭で趣旨を
徹底させる為の説明を行った。また、趣旨を理解されない方については、面談による説明も行
った。

4. 今後の課題

- 空間の有効的な活用方法、管理、安全、防犯面における課題の抽出と解決策の検討
- 持続可能な維持管理の在り方の検討(住民、関係団体、行政等の役割分担、組織づくり)
- WSで作成した整備イメージに対する一般市民の認知と、活用・管理などへの参加

平成18年度のWSでは、住民等が自ら活用空間の整備イメージを作り上げることができた。
平成19年度はその整備イメージをもとに、活用、管理、安全、防犯面などについて検討し、整
備イメージの修正や細部の検討とともに、整備後の活発な利用と円滑で持続可能な管理につ
なげていく土台作りを行う計画となっている。

さらに、本WSが平成19年度までの開催となっていることから、「にそと」工事が完了し、維
持管理が発生するまでの約5～6年の間は、「自分たちの手で維持管理すること」へのモチベ
ーションを維持し、且つ、広く一般市民に参加を呼びかける仕掛け作りが必要となる。

5. まとめ

WSを通じて、関係地域における「にそと」に対する意識の向上、多くの自治会からなる沿線
の住民等の交流が進みつつあると考えている。今後は、整備後に住民等が愛着をもって活用、
管理していくことができるよう、さらに検討を進めていく段階へと移る。住民と行政の協働を市
域全体でどう進めていくのか、「にそと」がそのモデルケースとなるよう、積極的な運営を続け
たいと考えている。

以 上